

ワークショップ

A班

道路閉塞

- ・地域内に一時避難場所が少ない。
- ・地域防災マップを作成し、親や子どもに伝えることが大切
- ・道路が閉塞しそうな道が多い。
→塀や家の耐震化を促進しよう。

火災

- ・消火器の場所がわからない。
→回覧板で周知する。

中学生の意見

- ・消火器の設置場所を回覧板などで地域に知らせられたら良いと思う。

B班

道路閉塞

- ・塀の高さを低くしてはどうか。
- ・耐震費用が高くて耐震できない。
- ・個人の権利への配慮も必要。

火災

- ・消火器の場所を確認しよう。

その他

- ・地域のこともっとよく知ろう。
- ・一人一人の意識改革が必要。
- ・敷地規制が必要。

中学生の意見

- ・近所の人々との係わりや協力が大事

C班

道路閉塞

- ・沿道に倒れそうなものをおかない。
- ・地域内での協力が大切。他人の家を通り抜けて避難する方法もある。

火災

- ・風向きによって状況は大きく変わる。
- ・広域避難所にすぐに避難することは困難。

その他

- ・松浪地区で良い先例を作って広げよう！
- ・地域によって状況が異なるので、それぞれの地域で対応を考える必要がある。

D班

道路閉塞

- ・倒壊したブロック塀を、お年寄りや敏捷に避けられないのでは。
→自宅周辺の要援護者を知ろう。
- ・行止り道路を通行できるようにする。

火災

- ・地域防災マップの作成、改善、配布
- ・日常生活の中での意識が大切
- ・消火設備の増設



講評

●市民の力、地域社会の力が大切

災害に対してあまり強くない地域でも、意識の高い、備えのある地域社会であれば、きちんと災害に立ち向かうことができます。こういった議論を進める中で、すばらしい地域になるのではと思います。

●2つの目を持つことが重要

今できる対策を考える“短期的な目”と、今は難しいけれど少し先をにらんで目指していく“長期的な目”の両方がとても重要。

●災害に弱いということは、まちの“資源”

災害に弱いという“資源”があるからこそ、今回のように自分の地域について考えることができました。このようなことを続けることで、防災面だけではなく別の意味でもっと良い町になると思います。



防災都市づくり NEWS

平成 21 年 12 月 13 日 (日) 第 2 回ワークショップ開催

VOL.

2

浜竹一・二丁目で第2回防災都市づくりワークショップを開催

11月22日に開催された第1回防災都市づくりワークショップに続き、第2回ワークショップが開催されました。今回は、「道路閉塞・火災を人の視点から考える」というテーマのもと、体験学習、ワークショップ等を通して、地域の防災都市作りについて考えました。特に、前回参加者に浜竹一・二丁目以外の方々にも参加いただき、幅広い議論が行われました。

体験学習

体験学習では、実際にブロック塀の倒壊やがれきによる道路閉塞、火災を再現し、体感してみました。



延焼シミュレーション(火災の燃え広がり方)

浜竹一・二丁目に出火した場合、どのように延焼していくのかシミュレーションを行いました。木造家屋や狭い道路が多いため、早い段階で初期消火を行わなければ、地区全域に火災が延焼する可能性があることがわかりました。



<第2回WSの内容>

日時:12月13日[日]9:00-12:00

場所:茅ヶ崎市役所

参加人数:19名

★体験学習

- ・道路閉塞を体感
- ・火災を体感

★ワークショップ

- ・延焼シミュレーション
- ・グループ討議

ワークショップの内容

体験学習や延焼シミュレーション(火災の燃え広がり方)の結果も活用しながら、4班にわかれてグループ討議を行いました。



